

びろっぱ

Vol.449 2023.12



冠動脈カテーテル治療の
ライブデモンストレーション

四国お遍路ライブ

表紙の写真



大規模地震時医療活動訓練

～新シリーズ～

栄養で支えるがん治療

近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

12月30日(土)～1月3日(水)は休診です。※近森病院救命救急センターは24時間対応いたします。

学会開催

四国血管内イメージング研究会 祝20周年!
第20回四国お遍路ライブを4年ぶりに
現地開催

2023年10月14日

近森病院 循環器内科 部長
西田 幸司 にしだ こうじ



お遍路ライブって?

このたび、冠動脈カテーテル治療のライブデモンストレーションコース(第20回四国お遍路ライブ)を近森病院主催で開催させていただきました。ライブデモンストレーションとは、リアルタイムでカテーテル治療を実施しながら、四国各県からお集まりの循環器内科医やメディカルスタッフと議論を交えつつ、手技を進めていくものです。

四国各県から172名の参加者が集い大盛況

今年は、当四国血管内イメージング研究会が

設立から20周年を迎えるとともに、4年ぶりの現地開催という特別な機会に恵まれ、当日は172名の参加者を迎えることができ、大盛況となりました。ライブでは、4症例ともに合併症なく治療を成功させることができました。お遍路ライブを通して四国の冠動脈カテーテル治療のさらなる発展と地域医療への貢献を願っています。

休日での開催にもかかわらず、準備や運営に協力して下さった近森病院のスタッフの皆さま、そして何よりも治療に協力して下さった患者さんに、心より感謝申し上げます。



カテーテル室から実際の手技を会場へライブ配信。



対面での熱い議論とライブのヒリヒリ感が会場を盛り上げる。



タイムテーブル

第一会場(医師)	9:00~10:20	Live Demonstration #1
	10:20~10:40	ショートレクチャー コーヒープレイクセミナー
	10:40~12:00	Live Demonstration #2
		休憩
	12:10~13:00	ランチョンセミナー
		休憩
	13:10~14:30	Live Demonstration #3
	14:30~14:50	ショートレクチャー アフタヌーンセミナー
	14:50~15:40	特別講演
15:40~17:00	Live Demonstration #4	
第二会場(コメディカル)	9:00~10:20	コメディカル 裏Live Demonstration #1
	10:40~12:00	コメディカル 裏Live Demonstration #2
		休憩
	12:10~13:00	コメディカルランチョンセミナー
		休憩
13:10~14:30	コメディカル 裏Live Demonstration #3	
15:40~17:00	コメディカル 裏Live Demonstration #4	



大盛況だったお遍路ライブを陰で支えた「秘書やカテ室のスタッフ、企業の方々の頑張りを写真に撮ってあげてください」と西田部長からの依頼で撮影。

学会受賞

第78回 日本消化器外科学会総会
学部学生・メディカルスタッフ・**優秀演題賞受賞**
初期研修医セッション

演題 | 後腹膜原発パラガン
グリオーマの1例

貴重な経験

2023年7月12~14日

初期研修医 2年目
竹田 有佑
たけだ ゆうすけ

総会では日本中の消化器外科医の先生方が集まる大きな学会です。このような場で発表でき、さらにはこのような賞を受賞できたことを非常にうれしく思います。また、他の優秀な先生方の発表も聞くことができ、たいへん勉強になりました。

このような機会を与えてくださり、スライドを指導いただいた塚田先生、病理について教授いただいた中嶋先生には非常に感謝しております。この受賞を糧にこれからも頑張っていきたいと思っております。



▲ 演題を指導した、消化器外科 塚田暁主任部長と。

第30回 日本門脈圧亢進症学会総会
若手セッション
優秀賞受賞

演題 | 慢性膵炎に起因する左側門脈圧
亢進症により胃静脈瘤を認めた
3症例



知識を増やす

初期研修医 1年目 **野村 真緒**
のむら まお

2023年9月22~23日

この度、門脈圧亢進症学会の若手セッションに参加させていただくことができました。

恥ずかしながら、左側門脈圧亢進症という疾患自体を知らず、はじめて勉強させていただきました。知らない世界に触れ、自分の知識を増やすことは必ず臨床に役立ちます。

多くの先生方のご指導のもと、学会発表の機会をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も学会発表を通して臨床に役立てていきたいと思っております。ありがとうございました。



研修

研修と地域医療連携の促進

2023年4月1日～9月30日

近森病院 循環器内科 黒川 夢彦
くろかわ ゆめひこ



診療の優先順位を振り返る

初期研修から3年間近森病院で勤務していましたが、今年の4月から9月までの半年間、土佐市民病院で研修させていただきました。普段は何故かうるさいと言われがちな私ですが、それなりに緊張して(猫被って?)初勤務に臨んだことは記憶に新しいです。

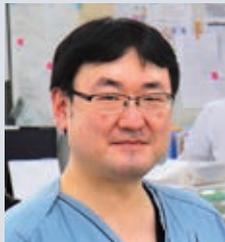
先生方は皆様が優しくおおらかで、すぐに受け入れてくださり自分らしく働くことができました。近森病院のようなハイボリュームセンターではありませんが、地域に根ざした診療を提供され、各施設や診療所、患者さんからの信頼が厚い病院だと感じました。「この患者さんはどこに帰るのか」、「介護支援サービスは十分か」などは当然重要ですが、自分の中でどこか診療の優先順位が下がっていた部分について、ゆっくり考える有意義な機会となりました。



地域医療に貢献するために

土佐市民病院で、患者さんを搬送する側の立場(いつ、どこに、どうやって)を経験できたことも勉強になりました。もちろん症例によっては近森病院に紹介しましたので両院の交流がさらに深くなれば幸いです。「顔見知りの先生」が地域に増えたことで、より一層丁寧な診療をしなければという責任感も出てきております。帰ってきたばかりの身であり、また一から精進して参りますので、どうか宜しくお願い致します。

おっと、救急車のサイレンが聞こえてきました。土佐市民病院からの紹介かもしれませんね。



地道に信頼関係の構築を

近森病院 地域医療連携センター長 塚田 暁
つくだ あきら

今回、近森内科専門医研修プログラムにご協力いただいている土佐市民病院への半年の研修で、地域医療について多くのことを学べたと聞いております。ご指導いただきました先生方には、心より御礼申し上げます。研修先で知り合った先生方と顔の見える連携をさせていただくことにより、近年連携数は増加してきています。今後も、土佐市民病院での内科医だけでなく、外科医研修も予定されていますのでよろしくお願いいたします。



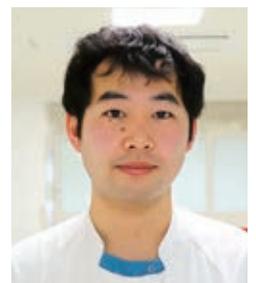
すまいる♥ナース通信 # 専門看護師

高齢の患者さんへの睡眠支援

高齢の患者さんが、安心・安楽に療養生活を送るために睡眠支援は欠かせないケアの1つです。

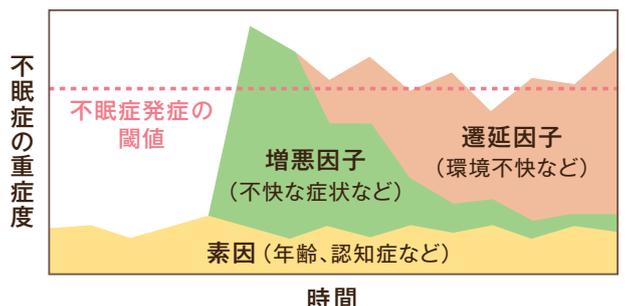
60歳以上の約3割の方に睡眠障害の訴えがあり、身体疾患を有する高齢者では、その増加が顕著になるという報告があります。また入院という環境の変化、様々な症状、元々の生活歴、有する疾患によっても睡眠に影響を受けます(図参照)。

例えば骨折による入院では、痛みのコントロールを行うことや、早期にベッドから離れた生活に戻していくこと、普段使っている枕を持ってきてもらうことも睡眠ケアになります。時には睡眠薬に頼ることもあります。重要なのは、睡眠に影響しているものを特定し、患者さんと相談しながら行うことです。何かお困りのことがあればいつでもご相談ください。



近森病院 6階B病棟
老人看護専門看護師
明神 拓也 みょうじん たくや

Spielmanの3Pモデル



▲ 例えば、高齢でもともと睡眠が浅い(素因)患者さんが、入院などの刺激(増悪因子)で不眠が発症、さらに入院による不安や昼寝のしすぎなど(遷延因子)で、不眠症が慢性化することを示した図。

医食同源を目指して がん治療サポートチーム 活動しています!



連載／後編

近森病院
糖尿病・内分泌内科
部長
浅羽 宏一
あさば こういち

亡くなる日の朝まで元気 ～母との8年から～

私は母を乳がんで亡くしました。母は乳がんが肺に転移してから、漢方薬の「十全大補湯」と抗がん剤治療で8年生きました。亡くなる日の朝まで元気でした。このような経験もあって、糖尿病専門医ですが、がんサポート診療をしています。多くの患者さんに漢方薬を服用していただき、食養生・運動療法もしていただき、元気で長生きして欲しいと願っています。



論文から示される十全大補湯の効果

私の体験だけでは説得力に欠けますので、最近の医学論文を紹介します。2020年に秋田赤十字病院からがん専門の医学専門雑誌(Mol Clin Oncol 13)に掲載された治験です。肺小細胞がんを再発した患者さんに①化学療法単独と②化学療法+十全大補湯で治療した患者さんに分けて検討しています。

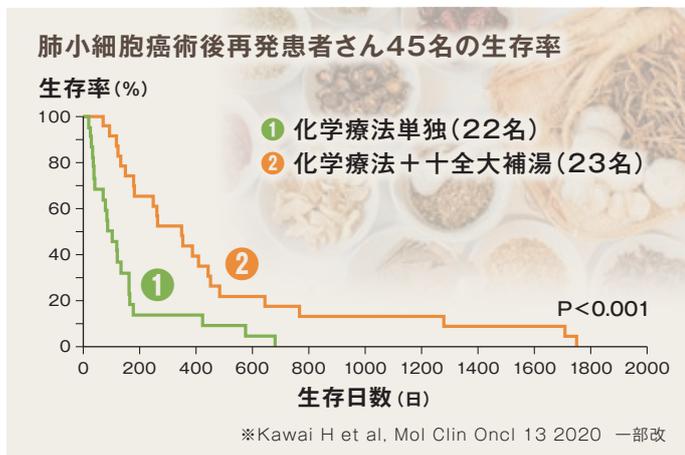
抗がん剤の副作用は①で81.8%、②で39.1%と、十全大補湯を服用すると副作用は少なくなります(決して0ではありません)。生存率は図に示すように、十全大補湯を服用した患者さんのほうが有意に延長していました。

十全大補湯以外にも、補中益気湯、人参養栄湯、牛車腎気丸など化学療法に併用すると良い漢方薬があります。



私の願い

多くのがん患者さんに漢方薬を服用していただき、栄養指導を受けて、元気で長生きしていただきたいと願っています。興味のある方はお近くの看護師にお声を掛けてください。



栄養で支える がん治療

近森病院 臨床栄養部

今月より
連載スタート

栄養とがんに関しては、がんの罹患と様々な食品の関わりや「痩せ」が治療経過を悪くすることなどが分かっています。そのため栄養とがんは切っても切れない関係です。

そこで、このコーナーではがん患者さんが何をどのように食べれば良いか、研究報告をもとに考えたいと思います。



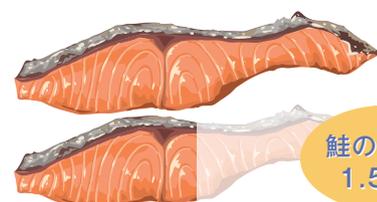
近森病院 臨床栄養部
管理栄養士
田部 大樹 たべ だいき

がん治療とたんぱく質

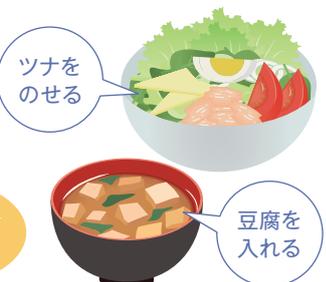
今回はがん治療とたんぱく質についてです。がん患者さんにとって筋肉は大切で、筋肉量と筋力が低下した状態では治療経過が悪いことが分かっています。そのため、筋肉を維持するために十分なたんぱく質を摂ることが大切で、必要な量は体重が60kgの方なら1食25～30gといわれています。これはおよそ鮭の切り身1.5切分です。

結構な量だな、と思いきいますが主菜だけではなく味噌汁に豆腐を入れる、サラダにツナをのせる、など食材の組み合わせ次第で摂ることが出来ます。普段からたんぱく質を十分に摂る為には「組み合わせる」ことを意識することが大切だと思います。

● 1食に必要なたんぱく質の目安



鮭の切り身
1.5切分



ツナを
のせる

豆腐を
入れる

災害訓練

近森病院は2007年4月に日本DMATに、2009年9月に災害拠点病院に指定され、まさかの時でも地域医療の最後の砦の役目を果たせる病院として常時訓練を行っています。

内閣府主催 令和5年度 大規模地震時医療活動訓練

2023年9月30日

もしも今日、地震が発生したら
～職員一人ひとりが覚悟を持って災害対応を～

近森病院 救急科 科長
三木 俊史
みき としふみ



籠城戦を想定した訓練

もしも今日、地震が発生したら…。みなさんは何ができますか。

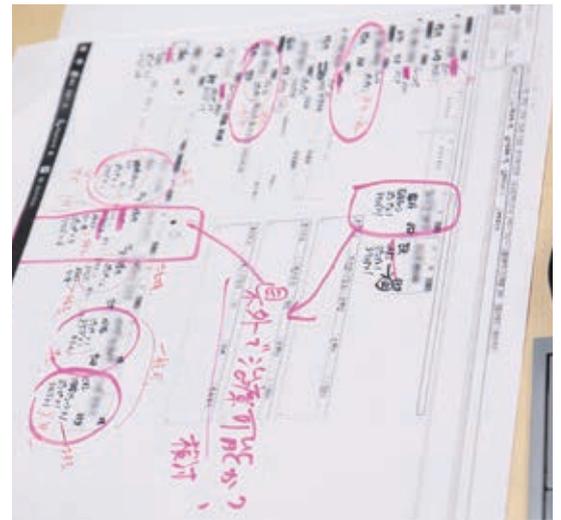
今回、南海トラフ地震を想定し、四国4県、大分県及び宮崎県の6県で、地域医療活動訓練や県内外のDMATの活動訓練等が実施されました。

近森病院では発災からおよそ1日経過した想定で訓練を行い、「籠城戦」の決断や、災害対策本部の動き、病院機能維持のための医療資源・ライフライン等を含めた耐久性の確認と訓練を行いました。また午後からはDMATの受け入れを行い、院外との連携を図りました。

訓練の度にブラッシュアップを繰り返して

近森病院では入院患者や働く医療者を守るために何をすべきか、最悪のシナリオを見据え、備蓄をはじめさまざまな災害対策を続けています。ただ本番は訓練と同じ想定は全くなく、その時々メンバーも違います。

今後は災害拠点病院として、一人でも災害関連死を出さないために、職員一人ひとりが覚悟を持って災害対応できるよう、もっと多くの職員が繰り返し参加できる訓練が望ましいのかもしれませんが、今回の訓練を通して出た課題をもとにブラッシュアップを行い、今後の活動に繋げていけたらと思います。



仮想病棟で刻々と変わる状況をベッドマップに落とし込み、コントロールする。



▲災害対策本部(左)と、ICU・50・8Aの仮想病棟(右)の2会場に分かれて訓練。



▲筑波大学の榎本有希先生(前列左端)、DMAT隊員と一緒に。



右から2人目が筆者、左隣：矢野言語療法科科长、右隣：小笠原リハ部長

避難所開設訓練

2023年9月30日

近森リハビリテーション病院 院長
和田 恵美子 わだ えみこ

9月30日に南国市立大湊小学校の体育館で行われた避難所開設訓練に、KORAT(高知県災害リハビリテーション連絡協議会)として近森リハビリテーション病院より3名が参加しました。「災害時にリハビリテーション?」と思われるかもしれませんが、避難生活の中で障害を持った方や高齢者が弱るのを防ぐ活動をしています。

当日は様々な団体の参加者と一緒に避難所のレイアウトを考え、仮設薬局・救護所の立ち上げや災害食の作成、浄水器による給水、段ボールベッドの組み立てを行い、避難所運営を体験、最後に小笠原リハ部長がストレッチと体操を行いました。

疲れた体がストレッチで生き返り、災害時のリハビリテーションの必要性も伝わったはずです。



小笠原リハ部長による
ストレッチと体操。



◀ 段ボールベッドの組み立て作業風景。

鏡川河畔 健康ウォーク

2023年11月11日

高知県の健康保険組合(四銀・高銀・キタムラ・近森)の共同事業として、ウォーキング大会が開催されました。近森会からは1歳から70代までの参加があり、陽気なインストラクターと一緒に準備運動をした後、約1時間のウォーキングを楽しみました。

秋晴れの中、
気持ちよくウォーキング
できました!



手足のスタンプで作ったよ!
保育室「そると」の
応援ポスター



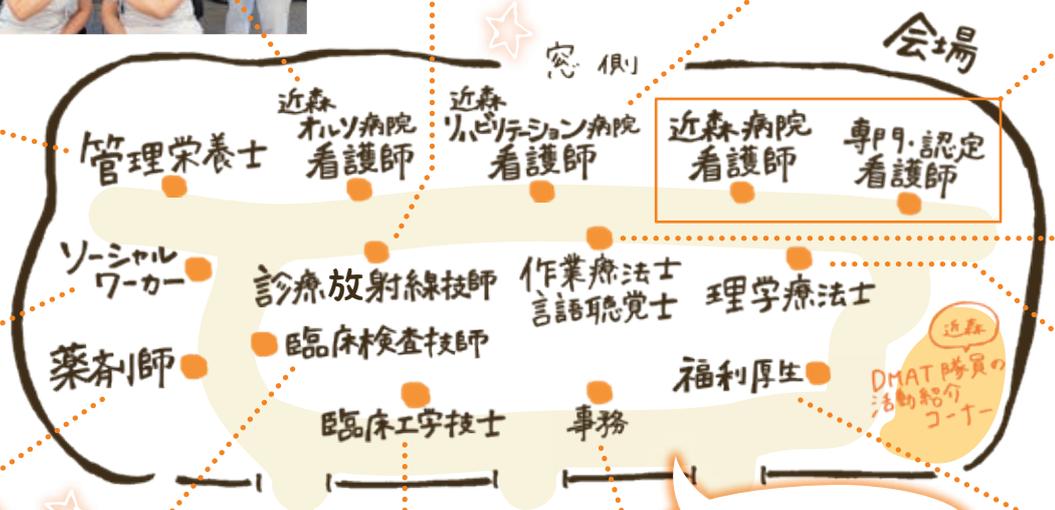
ALL CHIKAMORI 近森就職セミナー

2023秋

2023年11月3日

学生さんは学校行事があったり、3連休の初日ということもあり、参加者数が心配されましたが、60名もの方々がご参加くださりました。

各職種 ブース面談



スタンプラリー方式で
多職種の話を聞いて
もらいました。

病院見学



ERやICU病棟、また希望者には
リハ病院、オルソ病院も案内。近森会で
働く魅力が伝わったのでは！

皆さんと近森で
一緒に働ける日を
楽しみに待って
います！





運営事務局の
企画課スタッフ

近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

熱烈応援 昇格人事

チームワークを大切に

臨床検査部 技師長
近澤 香奈
ちかざわ かな

多くの経験と沢山の方々のご指導とサポートに支えられ、今日があることを実感しています。この感謝の気持ちを忘れず、これからもチームワークを大切に、患者さんに寄り添うチーム医療を目指して、スタッフと共に協力し取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



ハッスル研修医

2023年を振り返って

初期研修医 1年目 野村 真緒 のむら まお

入職当初は思い通りにいかないことばかりで毎日落ち込んでいましたが、周りの人々に助けられて充実した研修を行えています。

ただ最近ではチャレンジするエネルギーや新しい環境に身を置くことが怖くなりました。そこで「なりたい自分」を考え、逆算して目標を立てていきたいと思ひています。

大学6年生の頃はムキムキになりたくて、毎日たくさんご飯を食べて筋トレをして走り回っていました。頑張る方向は変わりますが、その時の気持ちでもう一度頑張ろうと思ひます。

最後に、12月号ということでこの1年を振り返ると、2023年は人生で最も充実した1年であったと断言できます。国家試験の勉強に追われ大学を卒業し、4月には入職。たくさんの素晴らしい方々との出会いがあり…あつという間に日々が過ぎました。

皆様はどんな1年だったでしょうか。残りの2023年も精一杯頑張つて素敵な1年にしましょう!

今後ともご指導よろしくお願ひ致します。



職員募集中!

募集職種

- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- 事務

3000通りの誇れる仕事

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



ファミーユ高知より



しごと・生活サポートセンター ウェーブ 2023年10月29日

きたほんまち
ハロウィン マラソン2023

第3回のマラソンは10月29日(日)に開催!

今年も晴天に恵まれ、きたほんまちを1周無事に走りきることができ、ハロウィンの時期なのでゴールや写真撮影の際には仮装して楽しみました。



令和5年度 近森会グループ ソフトボール大会

2023年10月22日

- 優勝チーム: チームDowntown
- 参加者数: 84名(全6チーム)



4年ぶり開催の第23回大会は、管理部の同期コンビの濱田と松本が率いるチームDowntownが優勝しました。



退院した患者さんから
絵手紙が届きました

絵手紙を頂いた内科 北岡医師より「食道の内視鏡手術を受けた患者さんです。治療後の絶食期間から食事療養を経て常食を食べられた喜びと、治療結果に安堵し控え目なお酒を楽しみたいという気持ちが伝わります」。

※患者さんの承諾を頂き掲載しています。

歳時記

Happy Halloween!
Oct. 31



- 診療支援部企画課 前野さくらさんの愛犬 ラブちゃん(7歳) @フォトブース

- 近森病院手術室 加志崎大地さんのお子さん こうき君(7歳) @町内会イベント



2023年9月29~30日

学園祭

近森病院附属看護学校



成功を収めた学園祭

近森病院附属看護学校 2年生
学生自治会学園祭リーダー

河内 凜 かわうちりん

今年の学園祭は、『Let's 近森祭～完全復活～』をテーマに9月29日(金)、30日(土)と2日間開催しました。9月29日(金)は前日祭として、けやまクリニックの毛山薫先生に『子宮頸がんのワクチン』についてご講演いただき、知識の再認識をしました。

また、昨年度までは近森会グループ関係者のみでの開催でしたが、30日(土)には、4年ぶりに外部の方々の参加や飲食の提供も可能となり、地域の皆さまや学生・関係者のご家族にも制限なく、多くの方にご来場いただきました。バザーやステージイベント、お化け屋敷、うどんや牛串・焼き鳥の販売、健康診断やキッズスペースを設けるなど盛り上がりを見せました。また、献血車にも来ていただき23名が献血を行いました。

4年ぶりの通常開催となり、何度も学園祭について話し合いを重ねながら準備を行ってきました。コロナ禍で歴代の先輩方からの引継ぎが途切れた中、自分達で考え決定することが多く無事開催できるか不安でしたが、当日はお客様も迎えることができ、一緒に楽しい時間を過ごせました。

今年のテーマは、
**Let's 近森祭
～完全復活～**



実行委員の皆さん
(筆者：左から2人目)

完全復活！ 近森祭

近森病院附属看護学校 教員
松浦 美樹 まつうら みき



今年度は、コロナ禍の制限がなくなり、4年ぶりに地域の方にも参加していただける学園祭を開催することができました。

コロナの影響で全学年が高校生活の中、文化祭などの行事を経験できておらず、手探りの中、学園祭の運営・準備を行って参りました。時にはぶつかり合い、その度に話し合いを繰り返しました。当日は大きな事故もなく、多くの来場者楽しんでいただけた学園祭となりました。

個人的には今年度、「完全復活」ということでダンス部の復活を企画し、3年生とダンスを披露いたしました。実習や授業の合間に学生と練習をし、当日は大成功を収めることができ、本当に良い思い出となりました。また、よさこいチーム「ちかもり」のご協力もあり、よさこい踊りの復活もできました。多くの観客の方がうちわを持って楽しんでいたのがとても印象的でした。

次年度は、今年度の課題を活かし、より活気に満ちた学園祭の開催ができることを願っています。近森グループの皆さまにはたくさんのバザーの品物の出品やお忙しい中のご来場、心から感謝します。



リレーエッセイ

我が家のクリスマス

近森病院 救命救急センター(ER) 勝 理沙
クラーク(四国管財株式会社) かつりさ



クリスマスは毎年家族皆でサンタさんの衣装を着てパーティをしています。

着て写真を撮ってご飯を食べるだけですが、子供達は喜んで毎年着るのを楽しみにしています。パパが着れるサイズがチュートップの服しかなくて、皆に笑われながらもこれを着るパパが恒例になっています。子供達が喜ぶようなクリスマス仕様のご飯を考えて作るのも一つの楽しみです。

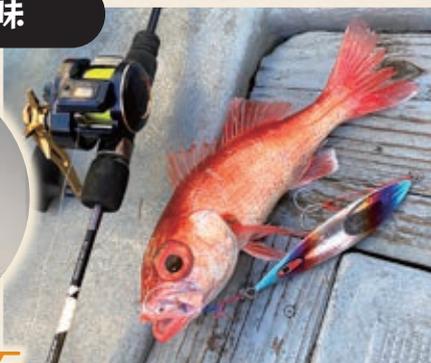
いつもとは違うご飯に、「どこで買ったか?」と失礼な事を言いながらいつも以上に喜んで食べてくれます。プレゼントは枕

元ではなくツリーの下に並べて置いて、朝起きてきて気づくというようにしています。寝ぼけながら自分のプレゼントを開封し、外に向かって「サンタさんありがとう!」と叫ぶ子供達はとっても可愛いです。

これから子供達が大きくなって、クリスマスを家ではなく友達などと過ごすようになっていくことを考えると、すごく寂しくしみりてしまいますが、「自分の家ではこんなクリスマスをしていた!」「毎年楽しかった!」と覚えていてもらえるようなクリスマスを毎年過ごしたいです。



私の趣味



海の赤い宝石

近森病院 手術室 看護師 横田 涼 よこた りょう

皆さん、この魚をご存知でしょうか。「海の赤い宝石」なんて呼ばれているアカムツ(ノドグロ)という魚です。食べたこと見たことがなくても、名前は聞いたことがあるのではないのでしょうか。少し前に三戸先生が大きいカンパチで記事を書いていたので、私は美味しい魚を紹介しようと思います。

私はスロージギングという釣りをしていて、カンパチやマハタ等、年中いろいろなものを狙って釣りに行っています。アカムツもターゲットのひとつです。

私は魚を釣るのは好きですが食べることがあまり好きではないので、何種類か以外は基本的に食べません。中でも圧倒的に美味しいと感じるのがこの魚です。炙りが最高です。

そしてこの魚、ターゲットとしても優秀で、その日のパターンがあったりと、いろいろ考えさせられる繊細な釣りです。

昨年12月に室戸市佐喜浜で、のどぐるジギング祭という大会に出場し、たまたまですが優勝しました。今年も参加したいと思います。

仕事よりも真面目に取り組んでいる趣味ですので、興味のある方は是非声をかけてください。一緒に行きましょう。

P.S.今年の6月に鹿児島のとある島に遠征に行きました。長期休暇ありがとうございました。また来年もよろしくお願いします。



FREE

まるまる 私の〇〇

〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「息子」

臨床検査部 臨床検査技師 市原 由佳 いちはら ゆか



我が家には3人子供がいますが、長男は3人の中でも一番運動が苦手。小学2年の時、何とかしようと思う親の意向により、地元のサッカークラブへ入部しました。

当初は「サッカーなんてしたくない」と思う気持ちと、環境に慣れないこともあり、グラウンドで泣いていました。コーチや友達に助けられながら1年続けた結果、みんなと試合に出られる程に。最近では隠れてココソとリフティングや足技を練習している様です。

将来なりたいものは?と問うと「サッカー選手とデュエルマスターズの全国大会に出られる選手になると!」だそうです。これからの成長が楽しみです。



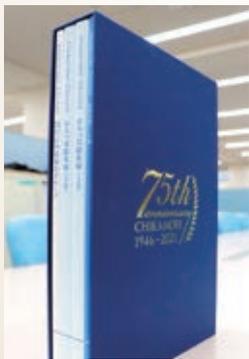
75周年記念誌シリーズ 堂々完成!

2021年12月24日の75周年記念日から早2年、ようやく記念誌の全シリーズが完成し、お手元に届けることができました。楽しんで御覧いただければ幸いです。



左より、『75年目の近森会グループ』（写真集）、
『ひろっぱ総集編（上・下巻）』、『病院実績データ集』

▶ 各部署には上の3種4冊を保管するブックケースも配布!



▶ 『職員から理事長への質問!』に回答』



▲ 日本赤十字社から近森病院に感謝状をいただきました

年始のご挨拶につきまして

近年の情勢や環境意識の高まりなどを鑑み、来年より、皆様への年始のご挨拶状を控えさせていただくことに致しました。

今後はSNS、メール、当ひろっぱ誌面等で情報をお伝えできればと存じます。

なお、公式なご連絡の際には従来通り、適宜ご挨拶状を発送させていただく所存です。

皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。

近森会グループ 理事長 近森 正幸

看護学校通信

基礎看護学実習Iを終えて

2023年10月17~19日

近森病院附属看護学校 1年生
中西 菜乃花 なかにし のか

私 は近森病院8A病棟で3日間実習をさせていただきました。
看護師さんはひとつひとつの行動に根拠をもって、小さなことでもそのひとつひとつが患者さんの安全を守ることに繋がっているのだと、シャドーイングを通して学ぶことができました。

3日間という短い期間でしたが、看護師さんは患者さんの命を守る仕事なのだ実感することができ、憧れの気持ちがより強くなりました。これから授業も頑張って、演習で技術を身につけて、指導していただいた看護師さん達のようにになりたいと思います。3日間本当にありがとうございました。



実習後の成果発表会(筆者:発表者右端)

編集室通信

話題のチャットGPT。出来ることを挙げるだけでこの欄が埋まるくらいだが、得意の1つが校正やキャッチコピー作成などの広報的作業のよう。試してみたが思うような回答をしてくれない。プロンプト(指示文)が大切らしく何度か調整するが、途中で焦れてしまった。夢の新技術も上手く使うには、まずは勉強と忍耐。 さきち

診療数

令和5年10月

— 電子カルテ管理課 —

- 近森会グループ
 - 外来患者数 17,163人
 - 新入院患者数 1,100人
 - 退院患者数 1,075人
- 近森病院(急性期)
 - 平均在院日数 12.65日
 - 地域医療支援病院 紹介率 99.44%
 - 地域医療支援病院 逆紹介率 349.91%
 - 救急車搬入件数 600件
 - うち入院件数 338件
 - 手術件数 645件
 - うち手術室実施 389件
 - うち全身麻酔件数 264件

伊勢 隆司 さん

Ryuji Ise

近森会グループ スープサービス監修
高知パレスホテル 料飲部 課長(シェフ)

聞き手/ひろっぱ編集部



「いのちのスープ」
辰巳芳子先生の
思いを引き継いで

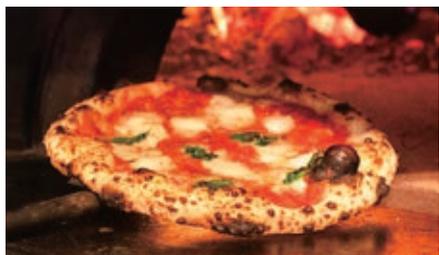
近森会で働くスタッフがターミナルステーションとなり食事が摂れなくなった際でも、料理研究家・辰巳芳子先生の「いのちのスープ」だけは食せたことから始まった「スープサービス」。辰巳先生のレシピをもとに、食材選びや監修をしているのが高知パレスホテルの伊勢シェフである。

スープの試食会と病棟提供日の伊勢シェフは、病院とホテルを行ったり来たり。

まず早朝に病院の調理場にて、エームサービスの担当さんと仕込みをする。そしてホテルに戻りランチの営業へ。それが終わると再び病院の厨房で仕上げをする。微調整の塩は素材の味が引き立てばストップ。塩気を感じたら入れすぎという繊細さ。「実際に辰巳先生の厨房に通い、本物の味を知っているのは自分だから」。多くの人に「いのちのスープ」を伝えたいという辰巳先生の思いを引き継ぐ身として、手を抜くことはできないのだ。

辰巳先生の流儀を学ぶ

コロナ禍以前は月に1度辰巳先生の教室に通っていた伊勢シェフ。「着くとすぐに、ご



伊勢シェフより「当店のナポリピッツァは、イタリア製の石窯を使い高温で一気に焼き上げています。生地は高知の塩とイタリアの小麦粉を使用。外はカリカリ、中はもちもちの食感を楽しめます」。

飯を出してくれて先生の書齋でいただきます。そこで先生の考えなどをつれづれに聞きました。それから厨房を手伝いますが、細かく注意されましたね。

「料理の技術が長けてくると手抜きできる場所も分かってくるのですが、先生の厨房に行くと初心に戻れました」。

この教室では素材のロスは厳禁。食材を切る幅も、例えば人参は5ミリ、玉ねぎは2ミリなどと決められている。火を通す時は、蓋をしてじっくり。鍋蓋についた水滴も旨味が詰まっているので鍋に戻すなど手間ひま全てに理由がある。「フレンチのスープとは調理法も全く違っています。しみじみと美味しいのは、先生のスープだと僕は思います」。

入院中の母に差し入れた「いのちのスープ」

伊勢シェフと姉は、ほとんど母一人に育てられた。父は、マグロ船の船長で帰ってくるのは1年半に1度(現在78歳で昨年ようやく船を下りた)。母は、料理上手で食卓には毎日何品も並んだ。シェフが語る料理説明から味覚が鋭いことは感じたが、その根底は母の手料理にあるようだ。

その母が5年前の年末、近森病院に入院することに。伊勢シェフは日曜市で新鮮な小かぶを選び、実家に戻りホーロー鍋で作ったスープを差し入れた。ミリ単位で野菜を切りじっくりと蒸らし…。寡黙な息子が、回復への願いを込めて作ったスープは、きつと言葉以上の愛情が伝わっただろう。

今、母親は病気になる前よりパワフルで、船を下りた父親と一緒に暮らしているようだ。

いつでも、おいしいピッツァを

パレスホテル1Fのレストラン「エズ」は、2年前「ピッツェリア エズ」としてリニューアルした。ここでピッツァを焼いているのも伊勢シェフ。コロナ禍初期、レストラン休業中は、薪ストーブ(薪窯の代用)のある社長宅でずっとピッツァの研究をしていたそうだ。

さらに、美味しいピッツァを求め各地を巡った。納得のいく製粉会社にたどり着くと、その開発担当から粉の特性を学びながら独自レシピを開発した。「僕の理想は、上質な小麦の旨味がふわりと感じられるような仕上がります。ピッツァは思っているより世話がかかります。配合や発酵時間などで旨味を引き出すタイミングが難しい」と、本人はさらなる美味しさへの追求の手を緩めていない。これこそ辰巳イズムではないか!

季節の素材の味に正直に真心を込めて

「『いのちのスープ』は、『薄い』という声も聞かれます。僕も初めて飲んだ時は薄く感じました。しかしそれが本来の味です。ぜひ、旬の素材を楽しんでほしい。このスープサービスが続く限り僕も頑張りたいです」。

アンケートでは「やさしい味」という回答も多い。それは、作る工程自体がやさしさから生まれているからだ。シェフの思いが近森病院から、さらにたくさんの方に伝わることを願う。

近森会グループの「スープサービス」について詳しくはこちらから →

